

平成25年度第1回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成25年（2013年）4月22日（月） 午前10時～同12時

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室1A

(3) 出席者

・景観審議会デザイン協議部会委員

徳尾野部会長、岩井委員、中嶋委員、赤澤委員、三谷委員、柏樹委員、
山崎委員

・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

大西部長、山下室長、西本課長、君田係長、谷口係長

・事業者

議事① 事業者 本田技研工業株式会社

株式会社ホンダカーズ兵庫

設計者 株式会社ラン建築事務所

(4) 議事

議事① （仮称）ホンダカーズ兵庫宝塚（本社）新築工事

(5) 傍聴者

なし

2. 会議の要旨

事務局：本日の審議会（部会）は、委員7名の出席であるので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨報告。

会長：了解した。審議を開始する。

★☆☆★★ 議事①（仮称）ホンダカーズ兵庫宝塚（本社）新築工事★☆☆★★

会長：開発事業の概要について説明を求める。

設計者：今回の事業について説明する。

武庫川町に今回、ホンダカーズ兵庫の本社を建設する。その1階部分にはディーラーのショールームと納品車の修理工場を、2階部分には1階と同じショールームと商談スペース、研修施設、その奥（南側）に、研修施設としての研修ピットを設ける。また、新車等が発表されたときの説明会などに使

用する研修施設を設ける。3階には、ホンダカーズ兵庫の本社、事務所、会議室、ホンダカーズ兵庫の集会に利用できる会議室を設ける。屋上は、駐車場であり、店舗用及び会議などの来客用駐車場に使用する。屋上へは、カーリフトで昇降する。

今回計画する敷地は、地区計画区域内であるため、国道（北側）から2メートル後退し建築物を配置している。階数は3階建て、高さ19.2mである。

外壁は白色で、けばけばしくならない様、看板はワンポイントで考えている。通常は、屋上に塔屋看板を設けるが、今回は壁面にホンダのロゴマークを設けるのみとする。出入り口については、東側（市道）及び北側（国道）からの2箇所を計画している。周囲には、植栽を予定している。1階及び2階前面をガラスとしてすっきりとしたデザインとしている。隣接地に産婦人科があり、窓など開口部を配慮して設けている。

委員：屋上駐車場の仕上げはどのようなになっているのか。

設計者：床はコンクリートとしている。車が見えないように2mの壁を立ち上げている。

委員：この位置は、周辺に高い建物もあり、周囲からの見下ろしの景観があるため、屋上に対して景観上の配慮をお願いしている。

設計者：隣のディーラーも屋上を駐車場としている。仕上げや屋根の設置といったことか。

委員：屋上駐車場の仕上げ塗装の色彩や駐車スペースのラインの有無などをお聞きしている。

設計者：ラインは設置する。下からの景観に配慮して壁を上げている。通常普通車の高さ2m弱であるため、2m上げておけば下からは見えない。

委員：塔屋の部分の色彩は何色か。

設計者：基本は既製品のカラー鉄板のグレー色で考えている。

委員：笠木の部分の色彩は何色か。

設計者：外壁と同色で考えている。

委員：小庇の色彩は何色か。

設計者：アルミ仕上げで考えている。

委員：一番気になるのは外壁の発色である。基準では明度8.5までとしているが、本件は壁面が大きく面積効果によって明るくなることから、明度8.5では明るすぎる。ホンダの標準色は9.0ということで、0.5配慮しているが、更なる配慮をお願いできないか。7.5とは言わないが8.0程度にならないか。

事業者：メーカーとして、全国的に、色見本パネルの一番上の白をお願いしている。

いま提出しているものはその下の3番目であり、配慮していると考えている。

委員：背景となる長尾山系の大地は鉄分が多いしっかりした色なので、白い色にし

すぎると浮いてしまうというデータに基づいて言っている。

事業者：一番上の白がかなり白いことは理解している。だから3番目にしている。その下になると白というよりグレーになってしまうため、ブランドイメージから外れてしまう。メーカーとしても調和について配慮した上での対応と考えている。

委員：京都などではマクドナルドなど景観に配慮した色彩を用いて、全国的に有名になった。同様に本社ビルを宝塚の景観に配慮したということで宣伝になるのではないか。

事業者：京都でも3番目にして対応している。企業として検討する努力はする。

会長：屋上への見下ろしがある場所でもあるため、アイレベル以外からの見た目として、屋根の面や屋上の面なども景観の観点から眩しくないような落ち着いた色彩として配慮していただきたい。

事業者：色彩はグレー色であり、眩しさはないと考えている。屋根の設置となると隣のディーラーは設置されていないが、なぜ本件は求められるのか。

会長：規模で審査対象を決めており、その規模を条例改正により引き下げた。本件は改正で対象となった最初の物件であり、今後の見本となる。

事業者：同業者を見本として計画しているため、この物件からと言われても対応しづらい。

会長：屋根の設置を求めているわけではない。屋上及び屋根の部分が見られることを意識して色彩や材料を検討していただきたいということである。

委員：きれいさまではいかなくても、穏やかな納まりになるようにしていただきたい。

設計者：塗り床仕上げであれば、グレーや緑で仕上げたことはある。

事業者：協議の行き違いとなつてはいけないので、具体的にどのような仕上げが良いと考えているのか。例えば屋上駐車場部分については、コンクリート打放しでラインを引くことを考えている。

委員：上から見る場合の考え方は基本的に屋根に準じる。屋上看板を設置するとかラインが目立つとかは良くないを考える。屋根に準じる色も宝塚市の基準があるので、屋根も屋上駐車場もそれに馴染むようにお願いしたい。コンクリートそのままであればかなり白っぽいので考えていただきたい。何色にしなさいとこちらから言う段階ではない。穏やかな調和を図っていただきたい。

事業者：屋上駐車場はかなりの頻度で車を置くので、その床面はあまり見えてこないと考えている。

委員：コーポレートカラーで考えているということは、十分理解している。ただ今

回の建物が他の事例と異なるのは、本社機能が付加された建物であるということ。それが一つになって大きな白い壁となっているところが問題である。例えば、ショールーム機能の部分だけを白いコーポレートカラーとして前面に置き、本社機能となる部分は少しセットバックして、景観形成基準を満たす周辺にある色彩として分けると、デザイン的にも良くなるのではないか。

事業者：メーカーとしては、本社を単独で建てるのではなく、ディーラーに付属して本社機能を持てばよいという考え方を持っている。だから、ディーラーをつくる中で付属しているものを設置するという扱いである。

委員：同じ形をしていても少し色を変えてみたり、道路側にある会議室をセットバックして屋上緑化を配置するとかはできないか。

事業者：それがコーポレート・アイデンティティ（CI）に絡むところであり、建物全てを白にするというのは譲れないところである。本田技研として、建物を建てる際に色を2，3通りにしてくれというのは出来ない部分である。だから、全体の色を少し落とすことについて検討をし、今回の色を提案しているところである。

委員：今回の建物は、国道176号はもとより、東面の道路や隣の産婦人科の駐車場越しに3面が見える建物であるということをも認識していただきたい。必要な機能を配置する為に整形でない形になっている。並びのディーラーのショールームに対して、2層のショールームの上に建物があることで違和感がある。南西にある引込んだところに本社機能を整形に配置して、前の2スパンはショールームとすると全体の形としても良くなるのではないか。

事業者：敷地の間口が狭いため、ショールームを2層にせざるを得なかった。

委員：ショールームが2層、幹線道路に面していることに問題があると言っている訳ではない。3階の会議室等を下げて後ろに配置できるのではないかということである。

設計者：先に建っている産婦人科の病室と近接しないよう、配慮した設計としている。

事業者：目線が合わないようにといわれている。

委員：パースの中で気になる場所は、カーテンウォールの上部の部分である。梁を隠す意図で設けられていると思うが、梁の下端から支持するディテールとすれば不要となるのではないか。

事業者：黄色だから合わないといわれているのか。

委員：断面を検討すれば不要となることを指摘している。

事業者：カーテンウォールは、通常中央の途中に線が入ってくるが、すっきり見えるように工夫することを検討中である。押さえた上でしっかりと掴む必要がある

こうした状況となっている。

委員：なくすと非常にシンプルなデザインとなるので、詳細を検討した上で、不要であればなくすことを検討していただきたい。

委員：ショールームの足元のレンガのような部分が非常に重要な部分になるので、白に合う黒っぽいかあるいはエンジ系で、色を抑おさえたものが品よく納まると思う。

事業者：対応できることはやっていきたいと思う。

委員：植栽について、東側はカイヅカイブキを植えて足元は芝でおさえるということであるが、レンガの色も含めて足元部分にあまり色がたくさんあると背後の植栽が効果を発揮しない。基本となるレンガを焦茶色に近づけて、芝ではなく、細かめのウッドチップを敷き詰めると植物がきちんと伸びてよい。芝は他の種が入りやすいため、雑草が多くなりメンテに手間がかかる。低木植栽についてはツツジを植えられるとのことだが、最近はあまり使わない。一面にツツジを敷き詰めるよりは木と木の間に、コーポレートカラーでもある白い花が咲く、例えばアベリアの白い花が咲くものなどを樹間に配置すると白い建物に合うと考える。

事業者：メンテナンスがかかるようなものか。

委員：ちょっと伸びる程度なので、一面に配置するのをやめればよい。ツツジであれば雑草が生えないように一面に敷き詰めるが、例えば幅2mあれば、奥の1mの部分に株で丸く植える。下のウッドチップの焦げ茶のところ緑が点在するといった感じになる。刈り込みの必要がなくなるので手入れが楽である。ツツジは逆によく剪定しないといけない。

委員：高木について、カイヅカイブキも手間がかかる。東面に3mピッチで並べてと検討されているが、モコモコになって建物の際で剪定する必要がある。例えば、ソヨゴであるが、葉が比較的少なく横に広がらずに縦に延びていく。ボリュームもない為、道路にも建物にも干渉しない。手間はかからない。雌株と雄株があり、雌株は赤い実が出来て日本庭園風になってしまうため、雄株を選んでいただきたい。建物の1/3から半分くらいまで伸びて景観上望ましい。芝を植えずにウッドチップ、株立ちのソヨゴを植えて間にアベリアの白い花が咲くものを植えれば、手入れの必要がない。陰でも育つ木なので陰になる場所でも問題ない。1mの幅があれば育つので西側にも植栽できる。幅がないのでソヨゴだけを植栽すれば、緑の向こうに白い建物が見えて良い景観ができる。

事業者：それも検討させていただく。できるところは対応させていただく。

委員：西側の芝は止めた方がよい。一番手入れしにくい場所であり、雑草が生えや

すくなる。木を植えていくほうが良いと考える。

会 長：正面はどうか。

委 員：正面はショールームとなるので、木は植えないほうが良い。花壇でお好きな花をとということだが、パンジーなどいろいろな色の花を植えるのではなく、緑にコーポレートカラーの白い花が咲くようなものをされると良い。

事業者：建設当初は良い植栽となっているが、営業している中で手間がかかると抜いたりということが出てくる。折り合いを考えながら対応したい。

委 員：屋上のセダムについては、緑地面積確保のために設けられたものか。楽しく手入れができるようなものが良いのではないか。手間がかけられないということか。

設計者：産婦人科の建物に近く病室に近いため、屋上に出ると視線が合ってしまう。当初は屋根を設けていなかったが、ピット等の作業場が上から見えてしまうことになるので設置した。

事業者：敷地が少し狭いため、また、隣の産婦人科との当初からの打ち合わせの中で本計画となっている。

設計者：産婦人科の建物が建つ前から打ち合わせをしており、お互いに配慮して計画をしている。

委 員：先程もあったが、フィルムを貼る必要のないように検討していただきたい。

事業者：検討するが、優先順位というのはあるのか。

委 員：優先順位というのではなく、それぞれの部分で対応していただきたい内容をお話している。壁の白も気になるし、フィルムは納まりを検討することでなくすことが可能であると考えている。レンガの部分は、明度を押さえたものが良い。

事業者：具体的にどのような色か。言っていただければその色で対応するが。

委 員：赤が良いというのであれば、ミッドランドブリックのようなグレーとかオーカーといった色で、赤が表に出ていなければ良い。

会 長：それでは今回の意見を踏まえていただき、今後地元協議等で大きな変更が生じた場合は再度報告することとし、本日の審議はこれまでとする。